

## 各テーマ別 審議のポイント

## 【テーマ:子ども・子育て】

キーワード	その理由
人生100年時代	人生100年を生き抜くための力が問われている。子どもが主役になる社会のあり方を考える必要あり。
社会・地域づくり	杉並の子ども達が心配なく、嬉々として遊べる・生活できる社会・地域づくりが重要。やり取りの中で関係性も育まれていく。
子どもの居場所	新型コロナウイルス感染症だけでなく、今後も様々な新たな感染症が発生することが予想される。現在の杉並区は、小中学校、児童館、学童クラブなどの子どもたちの居場所が大規模化し、詰込み状態となっている。感染症への対策としても、子どもたちの居場所の質を向上させるためにも、少人数の集団に教員や指導員をなるべく多く配置することが必要だと考える。
病名の無い集団生活に適応出来ない子供たちの居場所	集団に入れない性質、特性の児童が学校以外の場所で学ぶことが出来ない。ホームスクーリング
子どもの権利	子どもたち自らが選ぶこと、決めることが大切。子どもを指導するのではなく、選んでいく自由を与える必要がある。子どもの声に耳を傾ける社会が子どもの最善の利益につながる。子どもの声を聞く地域社会になっていかなければならない。
孤立をしない関係性づくり	親子関係が良好で、子どもを褒めれば、やる気や意欲が生まれ行動につながる。貧困にも言えること。貧困は学校を通して再生産される。自己肯定感を高めるためには、言葉の運用ができなければならず、学力が必要。学校のあり方そのものを変えなければならない。
子どもの貧困の解消	子どもの貧困が社会問題となっている。生まれた家庭の財政力によって、子どもの生活や成長に影響が出ないよう、行政としての様々な支援策が必要だと考える。
子どもの貧困	子どもが生まれ育った環境に関係なく、学び、夢を描ける社会を作る必要があると考えるため。
次世代育成基金	子どもが自分一人ではできない体験をして視野を広げる機会であると考えため。
ICT活用における子育て支援	全国的に待機児童が減少する（杉並区はゼロ）中で、特に保育園における保育内容を分析することで、就学支援につながっているかどうか検証する。未来志向の保育実践に向け、ICT導入の可能性を考える。

【テーマ:学び・教育】

キーワード	その理由
公教育の役割	義務教育及び就学前教育においては、認知能力だけでなく非認知能力の育成が大切であると考えするため。
学年横断でのアクティビティ	クラスだけのアクティビティだと、知らないうちにいじめの種ができてしまう可能性があるため。
小学校教師の社会的地位向上 先生のユーザ／先生アワード	教師が社会地域から畏敬の念を得れば、児童の保護者も教師を尊重するであろう
取組の連動と可視化	教育についての取組は様々だが、それぞれの連動性をもっと可視化し、誰もが理解しやすいものが有れば良いと思う。
地域の教育力	杉並区は「地域運営学校」「ICT教育」「小中一貫教育」「特別支援教育」等の様々な取組により理想とする教育環境に近づいてはいるが、地域の教育力という観点で見ると受け身の大人が多いと感じる。 子どもたちの主体性を育む為には先ず大人が手本となるべきだが、多様な生活環境の中で、その実践は何かと課題である。
ナナメの関係 (学校等と地域等との連携)	子どもの成長にとって、多様な関係性をつくることが重要であると考えため。
学び直し・生涯学習	社会のあらゆる場面で、学び直しが問われている。新しい日常をつくるためにも、学び直しのあり方を検討する必要あり。
AIと生体認証	AIと生体認証技術の発達で、人間のあり方が問われている。主体的に生きることを問い返す必要あり。

【テーマ:文化】

キーワード	その理由
学校施設等のさらなる有効活用	身近な場での活動拠点確保が重要であると考えため。
文化・スポーツの場	文化やスポーツを育むには人々が集う場の確保が必要。杉並区がその場を提供することは多くの区民が望んでおり、区立施設の在り方が問われていると考える。施設の使用料の問題、配置、機能の問題など、個人の財政力や居住する地域によって格差が生まれないよう場の整備、施設の整備を進めることが必要と考える。
市の施設のインターネット光化	市の全ての施設で、無料の光wi-fiを使えると助かる。特に、配信を考えてホールやリハーサル室。
区の歴史や文化の認知。わたしの「ふるさと」プロジェクト	区民個人が郷土愛を抱くことで他県への「ふるさと納税」が減る。アニメで似顔絵返戻など。
町並と防災	狭い道路に木造家屋が並ぶ。防災上望ましくない町というのは、だいたい歩いていて、おもしろい。その辺の矛盾について論じたい。
新道と緑地	中杉通りの延伸は本当に必要なのか？延伸する場合、善福寺川緑地との構造をどのようにするかなどについて（資料20-2）
自転車路の整備	増える自転車の安全対策 緑地公園内のサイクリングコースなどもあいまいな区間が多い。

**【テーマ:スポーツ】**

キーワード	その理由
スポーツの力の活用	競技、生涯、健康、障害者、学校等のスポーツのとらえ方が変化しており今後の活用について考えたい。
対象・目的別のスポーツの必要性	スポーツとは何か。競技、健康、フレイル予防など、それぞれの目的によって何が必要かを議論したい。
子供の基礎体力向上	運動をする子供としない子供の基礎体力の差が広がっており何らかの対応策が必要だと考えるため。
生涯スポーツの推進	生涯スポーツの環境を整備し、推進することは、区民の健康維持や孤立化防止、医療費などの削減につながると考えるため。
学校施設等のさらなる有効活用 (再掲)	身近な場での活動拠点確保が重要であると考えため。
学校を中心に地域に根付いたスポーツクラブを作る	日本には、欧米のように地域が中心となって、子供から大人まで参加できるスポーツクラブが少ないから。
スポーツボランティアなどの育成	指導者や面倒をみるコーディネーターの資質を持った人を育てる必要がある。競技と同様に高齢化が顕著であり、育成が課題であるため。
スポーツ文化の定着	スポーツと文化の融合が両者の更なる発展と区民の活性化につながると考えるため。
文化・スポーツの場 (再掲)	文化やスポーツを育むには人々が集う場の確保が必要。杉並区がその場を提供することは多くの区民が望んでおり、区立施設の在り方が問われていると考える。施設の使用料の問題、配置、機能の問題など、個人の財政力や居住する地域によって格差が生まれないよう場の整備、施設の整備を進めることが必要と考える。